

あきらまん

わが町、わが店、この道一筋。出逢いとコミュニケーション あかい新聞店ホームページ <http://www.akai-shinbunten.net> <発行所>あかい新聞店 武豊店/知多郡武豊町字金下37番地 ☎<0569>72-0356 常滑店/常滑市市場町4丁目167番地 ☎<0569>35-2861

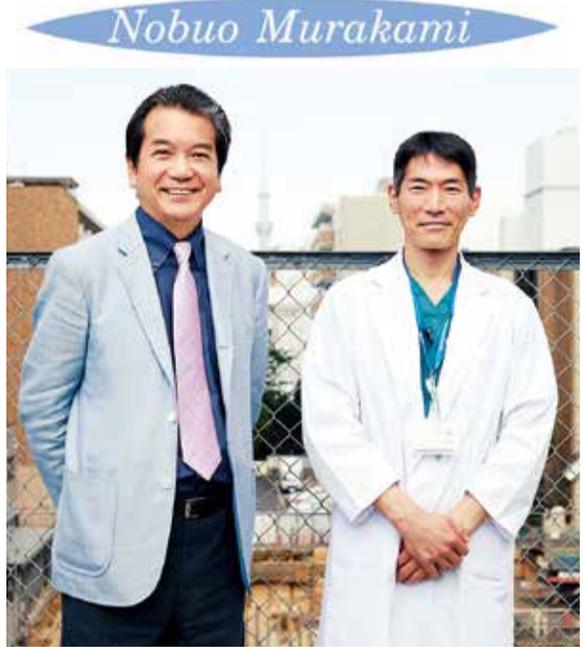
クロスメディアを総合力でプロデュースする

PTC GROUP

半田中央印刷株式会社

〒475-0032 愛知県半田市潮干町1番地の21
TEL 0569-29-2525 (代) FAX 0569-29-4500
<http://www.handa-cp.co.jp>

元氣のでてくる「ことばたち」(201)



撮影・鶴崎 燃

村上信夫

た。終始、柔和な表情。ユーモアもあるし、我を出しすぎない。話は噛み合い続け、嬉しいことばのキャッチボールが出来た。魂が喜ぶ対談となった。

第二次世界大戦後は、西洋からもたらされたものによって、日本ならではの精神文化も後退してしまった。古き良き日本人のもっていたものを思い出してほしいという気持ち強い。日本人がどんどん壊れていくのを見るにいかねて、矢作さんは、なんとかしたいと思うのだ。

■村上信夫プロフィール

2001年から11年に渡り、『ラジオビタミン』や『鎌田實いのちの対話』など、NHKラジオの「声」として活躍。現在は、全国を回り「嬉しい言葉の種まき」(毎週日曜10:00~)、月刊『清流』連載対談〜ときめきトークなどで、新たな境地を開いている。各地で『ことば磨き塾』主宰。1953年、京都生まれ。元NHKエグゼクティブアナウンサー。これまで、『おはよう日本』『ニュース7』『育児カレンダー』などを担当。著書に『嬉しいことばの種まき』『ことばのビタミン』(近代文藝社)『ラジオが好き!』(海竜社)など。趣味、将棋(二段)。
<http://murakaminobuo.com>

他者を気遣い、神様に感謝しながら、毎日を楽ししく生きる

東大教授 矢作直樹

人は死なない
東大病院の救急部・集中治療部部長である矢作直樹さんが『人は死なない』と言ったから、大きな反響を呼んだ。矢作さんは、幼いころの交通事故で、大学生のとき登山中の滑落事故で、あわせて3回命拾いをしてる。そういう経験を通して「死は単なる肉体死。魂は永遠に生き続ける」と言い切るから、説得力があったのだろう。

死を迎えることについて、昔の人は「人智を超えて、しかたがないこともある」とどこかでわかっていた。だが、時代とともに死の捉え方が変化した。矢作さんは、人の命を救おうと救急医療の現場に来たが、多くの人が命の瀬戸際になって生に執着する様子を見て、「魂は死なない」という内容の話を広く伝えたいと思った。

矢作さんの考えには、共感することが多く、どうしても会いたくなった。共通の知り合いを介して対談を申し入れたが、多忙を極める矢作さんから、2度断られた。だが諦め切れずに手紙を書いた。ようやく3度目の正直。対談を受諾してもらったが、実際に会うまで半年かかった。ようやく対面叶った矢作さんを、一言で言うとう、ふんわりやんわりした人だっ

ことばのエネルギー
対談の前日、馴染みの書店の棚で、偶然、新刊『世界一美しい日本のことば』を見つけた。「人生で起こることに偶然はない」と矢作さんが言うように、この本との出会いも偶然とは思えなかった。ここに書かれている「いい言葉にはプラスのエネルギーが宿っている」という話は、僕が主宰する「ことば磨き塾」でいつも言っていることと相通じるものを感じ嬉しくなった。

「ことばは『音』であると同時に『意識』なんです。この2つが合わさると、ことばはエネルギーに変化します。これがいわゆる『言霊』。ことばには、よいエネルギーを持つことばと、悪いエネルギーを持つことばがあります。よいエネルギーを持つことばを使うと、よいエネルギーがまわりに伝わります。意識がよい方向に変化するんです」。



俳画/イネ・セイミ

形から入って心に至るといふ。矢作さんも、形からだんだん座りがよくなつて魂が入ってくると考える。ありがたう、ありがたうと何度も言っているうちに、感謝している自分に気づく。言葉は習慣化して使うことで、身に付いていく。意識して意識して意識しているうちに無意識に使えるようになる。

中今を楽しめたら死ぬのが怖くなくなる

子どものころ、いたずら小僧で、学校の先生を困らせていたらしい。とにかく言うことをきかないので、通信簿には「この子は批判的である」と書かれていた。「批判的ってどういうことか」と母に聞いたら、「素直じゃないってことだ」と言われた。人と同じことが嫌いで、右と言われたら右を向く子ではなかったということだ。自分の感性のままに動いていたのだ。それは、そのままに受け継がれているように思う。

僕は小さい頃「なんで自分はここにいるのか」と考え始めたら切りがなくなり、途中で怖くなって考えるのをやめたことが何度もある。矢作さんも小さい頃から見えないものの存在を感じていたのか聞いてみた。「自分の場合は頭をつかって考えるというよりは、感じるというか、直観的でしたね。『なんで自分を産んだんだ』と親に言う人もいますが、この親の元に生まれてきたのは自分の意思だと思っていました。宇宙から見れば人も地球も『one of them』で、個にこだわらなければならないとは思いません」。

世界中で争い事が絶えず、混とんとしている時代。矢作さんは、そんな今こそ日本人の出番だと考える。これからは日本的な調和の方向にいくのではないかと。そうならないと、本当の世界平和はこないと思う。「でなければ、地球さんに失礼ですよ」。

地球さん。いいなあ、そういう言い方人間は霊長類のトップにいると錯覚している。「宇宙の高い次元の立場から人

類を見れば、地球だけでなくすべてに節度というか、いたわりをもってほしい」と矢作さんは穏やかに言う。ただあまり悲観はしていない。「人の心に灯がともるかどうかだけの話」だと。

著書に、「他者を気遣い、神様に感謝しながら、毎日を楽ししく生きることが大事」と書いてあった。そういう生き方をするには、自利利他のバランスが大事。この世界はすべてバランスなのだ。自分の中で自利と利他のバランスがとれていると思うか聞いてみた。

笑いながらこう答えて返ってきた。「あまり意識したことはないのですが、いまのところ元気に暮らしているの、理にかなった生き方ができているような気がします。あまり鏡は見ませんが、自分自身としては満ち足りた顔をしていると思います」。

矢作さんがよく言う「中今」。過去に執着せず、未来を憂えず、今を楽しめたら、人生は変わるはず。だから矢作さんは、ふんわりやんわりしているのかもしれない。

好評発売中

嬉しいことばの種まき

イネ・セイミプロフィール

フルート奏者として活躍中。俳画家。絵画を幼少より日展画家の(故)川村行雄氏に師事。俳画を華道彩生会家元(故)村松一平氏に師事。俳画の描法をもとに少女猫等を独自のやさしいタッチで描いている。個展多数。

俳画教室開講中

ところ 常滑屋
とき 俳画教室月二回 午後一時~三時
会費 一回 二、二五〇円(三ヶ月分前納制)
問合せ ☎〇五六九(三三)〇四七〇

インディアンフルート教室開講します

誰でも簡単に音が出せる楽器です。あなたも今日からインディアンフルートを楽しんでください。

講師 イネ・セイミ
(日本インディアンフルートサークル協会ディレクター)
レッスン 30分3,500円 会場 半田市柳ヶ丘
申込み 0569-89-7127
お問合せ seimi@oasis.ocn.ne.jp

入会受付中!!

山崎方代をめぐって (10) 杉本武之

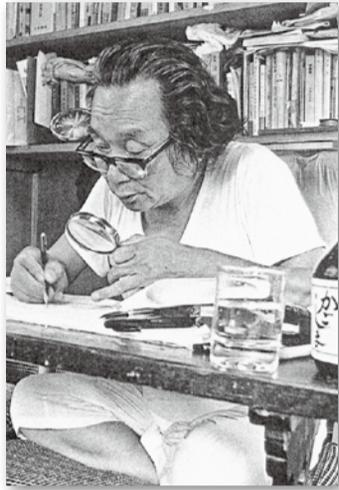
⑭加納実紀代さんへの手紙
 静岡に行った翌日、私は友人の加納実紀代さんに手紙を書きました。「お元気でですか。昨日亡くなった長倉久子さんの実家に行って来ました。お姉さんが『ミニ展 歌人・方代さんとその周辺』を6月で開催されたので、山崎方代に興味のある私は、静岡まで出かけた行つたのです。」

倉さんのお父さんのことが何回も出てくるので、びっくりしました。しかし、この展示会に行くまでは、お父さんがどんなにすばらしい人であったか、少しも知りませんでした。

お父さんは、シベリアの強制収容所で『極光のかげに』の作者・高杉一郎と知り合い、帰還後も親しく交際していました。

また、『原爆詩集』の峠三吉とも親しく、一緒に文学活動をしていました。長倉さんのお姉さんの話では、峠三吉が病気で倒れた時には、家に連れて来て、何日間も面倒をみたそうです。

また、歌人の川田順とも親しく、川田順が安倍城址を見たいと言った時に、その城について勉強したのがきっかけで、汚い格好をしていた放



山崎方代

お姉さんの話では、これは実に貴重な葉書だと思えます。山崎

方代という特異な歌人と、長倉久子さんという真摯な中世思想研究家が、この一枚の古い葉書で美しく結ばれています。方代は、小学生の長倉さんに対して、こんなにも難しく、こんなにも深い歌を書いてあげていたのです。長倉さんがどんなに利発な女の子であったか、想像が付きまします。小学生の長倉さんは、方代にとって、静岡で一番美しいお嬢さんだったのです。(後略)

⑮小島信夫と山口瞳
 方代の歌の特異性が注目され始めた頃。作家の小島信夫と山口瞳は、それぞれ、方代の歌について、次のように書きました。
 〈小島信夫「月光」(『群像』昭和57年4月号)〉
 「山崎方代さんは、知っている人は知っていると思うけど、ちょっと面白い歌人である。俳句のほうで言えば、山頭火や、尾崎放哉に似ているかもしれない。鎌倉の手広というところの小屋に住んでいて、自分で乞食のよ

うな暮らしたと言っている」
 ⑯山崎方代の歌
 私の好きな方代の歌を挙げます
 ・ずぶぬれたる犬が袋小路をあてなく通り又通りゆく
 ・一枚の鏡の中に おれの孤独が落ちていた
 ・こんなにも湯呑茶碗はあたたかく しどもどるに吾はおるなり
 ・ある朝の出来事でした ころろがわが欠け茶碗とびこえゆけり
 ・大きな波が寄せてくる 大きな笑いがこみあげてくる
 ・地上より消えゆくときも 人間は暗き秘密を一つ持つべし

⑰山崎方代の文章
 最後に、方代のエッセイ集『青いその花』(かまくら春秋社)から、彼の文章を少し引用します。和歌とは違った面白さがあります。
 「私の歌を種田山頭火

尾崎放哉の俳句を引き合いに出して、世間の人がよく話しかけてくれるが、有難い気もするし、くすぐったくもあるし、なぜか割り切れないものが駆けめぐる。もちろん、この高名の二人の作品はそれぞれに異色であることは異存ないけれども、何か欠けていような気がしてならぬ。たとえば、文学のもつ影のなまめきみたいなものが私には感じられないのだ。地上にこるがっている石ころでも、月夜の晩には、おのれの影をちゃんと土の上に置いていてではないか」(閑窓記)

「去年の暮れのことであつた。明日は元旦というのに机の上には、銅貨が二枚、すまぬような顔をしてくっている。私には今、この十五円が全財産だ。
 そんな時には先ず落ち着きはらつて、枕を心もち高くして、両手をかかるとお腹にのせる。そして、女の白いうなじあたりを思い描きながら

じつと寝ているのが、文殊菩薩の知恵である。動く、お腹が空いて、ひもじさが頭をもたげてくるからだ。生きてさえいれば、おてんとう様はほつたらかしにしておかぬ。土瓶の水を口呑みしながら待つともなく待つっていると、何処からともなく酒が届いたりする。何時だったかは、猪の肉が届いた。たちまち、内大尽になったので、ご近所へおすそ分けをして喜ばれたことがある。せちがらい世の中で、どうしてこうも万事うまくいくのかしらん」(笑う石)

⑱杉本武之プロフィール
 1939年 碧南市に生まれる。
 京都大学文学部卒業。翻訳業を経て、小学校教師になるために愛知教育大学に入学。25年間、西尾市の小中学校に勤務。定年退職後、名古屋大学教育学部の大学院で学ぶ。
 〈趣味〉読書と競馬

この指とまれ (232) 氏原朝信
 昭和51年度 三年三組の学級通信「なかよし」

①マスあけたところから書くの。」
 それからちよつと、ぼくは外に行つた。
 家の中に入つたら、弟のかんそう文ができていた。弟は「どう」といってぼくに見せた。ぼくは「うまい字だなあ」とほめてやりました。弟はじまんそうに、「へへへ」とわらつた。
 その題は『てんぐのかくれみのをよんで』と書いてあつた。字はじょうずだがちよつと気になることがあつた。それはあらずじみたいだつた。だから、ぼくは「これ、あらずじみたいだぞ」といってやつたら、「まあ、いいことよ」と弟はほめてくれた。

②ジョーズ (2月1日) I・M男
 学級で休んだ人がいた。四人もいた。先生は「家に帰つたら、うがいをしろ」といって、休んだ人は、I・T・U・A・I・Tとあと一人だ。こんなに休んだのはほめてくれた。

③ジョーズ (2月1日) I・M男
 学級で休んだ人がいた。四人もいた。先生は「家に帰つたら、うがいをしろ」といって、休んだ人は、I・T・U・A・I・Tとあと一人だ。こんなに休んだのはほめてくれた。

④ジョーズ (2月1日) I・M男
 学級で休んだ人がいた。四人もいた。先生は「家に帰つたら、うがいをしろ」といって、休んだ人は、I・T・U・A・I・Tとあと一人だ。こんなに休んだのはほめてくれた。

⑤ジョーズ (2月1日) I・M男
 学級で休んだ人がいた。四人もいた。先生は「家に帰つたら、うがいをしろ」といって、休んだ人は、I・T・U・A・I・Tとあと一人だ。こんなに休んだのはほめてくれた。

⑥ジョーズ (2月1日) I・M男
 学級で休んだ人がいた。四人もいた。先生は「家に帰つたら、うがいをしろ」といって、休んだ人は、I・T・U・A・I・Tとあと一人だ。こんなに休んだのはほめてくれた。

⑦ジョーズ (2月1日) I・M男
 学級で休んだ人がいた。四人もいた。先生は「家に帰つたら、うがいをしろ」といって、休んだ人は、I・T・U・A・I・Tとあと一人だ。こんなに休んだのはほめてくれた。

⑧ジョーズ (2月1日) I・M男
 学級で休んだ人がいた。四人もいた。先生は「家に帰つたら、うがいをしろ」といって、休んだ人は、I・T・U・A・I・Tとあと一人だ。こんなに休んだのはほめてくれた。

⑨ジョーズ (2月1日) I・M男
 学級で休んだ人がいた。四人もいた。先生は「家に帰つたら、うがいをしろ」といって、休んだ人は、I・T・U・A・I・Tとあと一人だ。こんなに休んだのはほめてくれた。

⑩ジョーズ (2月1日) I・M男
 学級で休んだ人がいた。四人もいた。先生は「家に帰つたら、うがいをしろ」といって、休んだ人は、I・T・U・A・I・Tとあと一人だ。こんなに休んだのはほめてくれた。

⑪ジョーズ (2月1日) I・M男
 学級で休んだ人がいた。四人もいた。先生は「家に帰つたら、うがいをしろ」といって、休んだ人は、I・T・U・A・I・Tとあと一人だ。こんなに休んだのはほめてくれた。

⑫ジョーズ (2月1日) I・M男
 学級で休んだ人がいた。四人もいた。先生は「家に帰つたら、うがいをしろ」といって、休んだ人は、I・T・U・A・I・Tとあと一人だ。こんなに休んだのはほめてくれた。

⑬ジョーズ (2月1日) I・M男
 学級で休んだ人がいた。四人もいた。先生は「家に帰つたら、うがいをしろ」といって、休んだ人は、I・T・U・A・I・Tとあと一人だ。こんなに休んだのはほめてくれた。

⑭ジョーズ (2月1日) I・M男
 学級で休んだ人がいた。四人もいた。先生は「家に帰つたら、うがいをしろ」といって、休んだ人は、I・T・U・A・I・Tとあと一人だ。こんなに休んだのはほめてくれた。

⑮ジョーズ (2月1日) I・M男
 学級で休んだ人がいた。四人もいた。先生は「家に帰つたら、うがいをしろ」といって、休んだ人は、I・T・U・A・I・Tとあと一人だ。こんなに休んだのはほめてくれた。

⑯ジョーズ (2月1日) I・M男
 学級で休んだ人がいた。四人もいた。先生は「家に帰つたら、うがいをしろ」といって、休んだ人は、I・T・U・A・I・Tとあと一人だ。こんなに休んだのはほめてくれた。

⑰ジョーズ (2月1日) I・M男
 学級で休んだ人がいた。四人もいた。先生は「家に帰つたら、うがいをしろ」といって、休んだ人は、I・T・U・A・I・Tとあと一人だ。こんなに休んだのはほめてくれた。

⑱ジョーズ (2月1日) I・M男
 学級で休んだ人がいた。四人もいた。先生は「家に帰つたら、うがいをしろ」といって、休んだ人は、I・T・U・A・I・Tとあと一人だ。こんなに休んだのはほめてくれた。

⑳ジョーズ (2月1日) I・M男
 学級で休んだ人がいた。四人もいた。先生は「家に帰つたら、うがいをしろ」といって、休んだ人は、I・T・U・A・I・Tとあと一人だ。こんなに休んだのはほめてくれた。

長澤晶子のSPEED★COOKING!

簡単! 酢玉ねぎ

はじめ暑い季節ですね。疲労回復や血液サラサラの効能があると言われる話題の酢玉ねぎを食べやすくなりました。お試し下さい!

材料

- ① 玉ねぎ...中1個 (きれいなまな板で皮をむいて端を切り落とし、一度水洗いして水気をペーパーでとり千切りにする。)
- ② 塩...少々
- ③ 殺菌酢...50cc
- ④ はちみつ...大さじ1弱

作り方

- ①②をジップロックに入れる。軽くもんでなじませる。
- ③④は耐熱容器に入れてレンジで1分加熱。レンジから取り出し冷ましておく。
- ①の中に②を注ぐ。こぼれない様、封をとじる。
- 冷蔵庫に入れ味をなじませる。(半日)

- ・マリネ、酢の物、トッピングとして毎日少量召し上ると良いですよ!!

52222

常滑市民文化会館

- 第24回ファミリーコンサート十九日(開)開場午後一時、開演午後二時(同四時)入場無料、開演時、常滑市市民文化会館(52222)
- 愛知吹奏楽コンクール知多地区大会、中学A編成の部二十日(開)開場午後九時三十分、開演同十時(午後五時)入場料五百円、開演時、愛知吹奏楽コンクール知多地区大会(52222)
- 愛知吹奏楽コンクール知多地区大会、中学B編成の部二十日(開)開場午後九時三十分、開演同十時(午後五時)入場料五百円、開演時、愛知吹奏楽コンクール知多地区大会(52222)
- 愛知吹奏楽コンクール知多地区大会、中学C編成の部二十日(開)開場午後九時三十分、開演同十時(午後五時)入場料五百円、開演時、愛知吹奏楽コンクール知多地区大会(52222)
- 愛知吹奏楽コンクール知多地区大会、中学D編成の部二十日(開)開場午後九時三十分、開演同十時(午後五時)入場料五百円、開演時、愛知吹奏楽コンクール知多地区大会(52222)
- 愛知吹奏楽コンクール知多地区大会、中学E編成の部二十日(開)開場午後九時三十分、開演同十時(午後五時)入場料五百円、開演時、愛知吹奏楽コンクール知多地区大会(52222)
- 愛知吹奏楽コンクール知多地区大会、中学F編成の部二十日(開)開場午後九時三十分、開演同十時(午後五時)入場料五百円、開演時、愛知吹奏楽コンクール知多地区大会(52222)
- 愛知吹奏楽コンクール知多地区大会、中学G編成の部二十日(開)開場午後九時三十分、開演同十時(午後五時)入場料五百円、開演時、愛知吹奏楽コンクール知多地区大会(52222)
- 愛知吹奏楽コンクール知多地区大会、中学H編成の部二十日(開)開場午後九時三十分、開演同十時(午後五時)入場料五百円、開演時、愛知吹奏楽コンクール知多地区大会(52222)
- 愛知吹奏楽コンクール知多地区大会、中学I編成の部二十日(開)開場午後九時三十分、開演同十時(午後五時)入場料五百円、開演時、愛知吹奏楽コンクール知多地区大会(52222)
- 愛知吹奏楽コンクール知多地区大会、中学J編成の部二十日(開)開場午後九時三十分、開演同十時(午後五時)入場料五百円、開演時、愛知吹奏楽コンクール知多地区大会(52222)
- 愛知吹奏楽コンクール知多地区大会、中学K編成の部二十日(開)開場午後九時三十分、開演同十時(午後五時)入場料五百円、開演時、愛知吹奏楽コンクール知多地区大会(52222)
- 愛知吹奏楽コンクール知多地区大会、中学L編成の部二十日(開)開場午後九時三十分、開演同十時(午後五時)入場料五百円、開演時、愛知吹奏楽コンクール知多地区大会(52222)
- 愛知吹奏楽コンクール知多地区大会、中学M編成の部二十日(開)開場午後九時三十分、開演同十時(午後五時)入場料五百円、開演時、愛知吹奏楽コンクール知多地区大会(52222)
- 愛知吹奏楽コンクール知多地区大会、中学N編成の部二十日(開)開場午後九時三十分、開演同十時(午後五時)入場料五百円、開演時、愛知吹奏楽コンクール知多地区大会(52222)
- 愛知吹奏楽コンクール知多地区大会、中学O編成の部二十日(開)開場午後九時三十分、開演同十時(午後五時)入場料五百円、開演時、愛知吹奏楽コンクール知多地区大会(52222)
- 愛知吹奏楽コンクール知多地区大会、中学P編成の部二十日(開)開場午後九時三十分、開演同十時(午後五時)入場料五百円、開演時、愛知吹奏楽コンクール知多地区大会(52222)
- 愛知吹奏楽コンクール知多地区大会、中学Q編成の部二十日(開)開場午後九時三十分、開演同十時(午後五時)入場料五百円、開演時、愛知吹奏楽コンクール知多地区大会(52222)
- 愛知吹奏楽コンクール知多地区大会、中学R編成の部二十日(開)開場午後九時三十分、開演同十時(午後五時)入場料五百円、開演時、愛知吹奏楽コンクール知多地区大会(52222)
- 愛知吹奏楽コンクール知多地区大会、中学S編成の部二十日(開)開場午後九時三十分、開演同十時(午後五時)入場料五百円、開演時、愛知吹奏楽コンクール知多地区大会(52222)
- 愛知吹奏楽コンクール知多地区大会、中学T編成の部二十日(開)開場午後九時三十分、開演同十時(午後五時)入場料五百円、開演時、愛知吹奏楽コンクール知多地区大会(52222)
- 愛知吹奏楽コンクール知多地区大会、中学U編成の部二十日(開)開場午後九時三十分、開演同十時(午後五時)入場料五百円、開演時、愛知吹奏楽コンクール知多地区大会(52222)
- 愛知吹奏楽コンクール知多地区大会、中学V編成の部二十日(開)開場午後九時三十分、開演同十時(午後五時)入場料五百円、開演時、愛知吹奏楽コンクール知多地区大会(52222)
- 愛知吹奏楽コンクール知多地区大会、中学W編成の部二十日(開)開場午後九時三十分、開演同十時(午後五時)入場料五百円、開演時、愛知吹奏楽コンクール知多地区大会(52222)
- 愛知吹奏楽コンクール知多地区大会、中学X編成の部二十日(開)開場午後九時三十分、開演同十時(午後五時)入場料五百円、開演時、愛知吹奏楽コンクール知多地区大会(52222)
- 愛知吹奏楽コンクール知多地区大会、中学Y編成の部二十日(開)開場午後九時三十分、開演同十時(午後五時)入場料五百円、開演時、愛知吹奏楽コンクール知多地区大会(52222)
- 愛知吹奏楽コンクール知多地区大会、中学Z編成の部二十日(開)開場午後九時三十分、開演同十時(午後五時)入場料五百円、開演時、愛知吹奏楽コンクール知多地区大会(52222)

(有)大阪屋葬祭

誠意をこめて安心のお手伝い 年中無休・24時間体制

常滑ホール 鬼崎ホール 阿久比ホール

TEL<0569>35-4949 (代表) FAX 35-4911

知多の新鮮たまご 発酵ケイフン

(有)知多エッグ

知多郡武豊二ツ峯380 TEL0569-73-6341

新シリーズ ヒューマンライフ

『新・現代家庭考』 就職

—自分ドラマつくろう— (51) 岡田 清治

嫁の就職2

「時間も経ったから半田市の(株)ミツカンに寄って昼食の場所へ席を移そうか」

「はい」

「常滑から半田までクルマで20分ほどだから、ミツカンの本社博物館『酢の里』(現在、新装工事中、平成27年秋オープン予定)にも寄ろう。ただ見学には予約が必要だから今回は周辺を散策だけにしておくが、いいかい」

「はい、一度見ておきたいです」

クルマが少なくスムーズに進んだ。舞も高校時代と違ってすっかり大人びた雰囲気を感じていた。高校生のころまではよく手紙を寄したが、大学に入ってからほとんど便りがなかった。

真三は父親がいらないのに素直な女性に育っていたことに改めて感心しながらクルマのスピードを上げた。舞は窓からの風景を見やりながら静かにドライブを楽しんでいた。

「着いたよ。早いだろう」
「そうですね」

ミツカン本社周辺は半田運河を中心に再整備が進められようとしていた。半田市の景観に配慮して地域との調和を大切にしていることがわかる。見学者もほとんど見当たらない。

「運河の辺りを歩いてみようか」

「はい。すばらしい景観ですね」

運河の淵を歩きながら真三は思い切って聞いてみた。「ところで、舞さんはお父さんについて、どう思っているの？」

「そうですね。ほとんど怒られた記憶がありません。新聞記者だったということは中学生のころには知っていました。ただ新聞をつくっていたことぐらいで、どういふことをしているのか、本当のところは知らなかったです。その前に亡くなりましたので…」

「そうだったね。つらかったね」

「お父さんの書斎は当時のまま残してありましたので、大学に入ったころから、残っていた記事の切り抜き、取材ノートや日記、また蔵書の何冊かを読みました」

「そうですね。それで少しは新聞記者の仕事が理解できたのですね」

「理解できたかどうか、わかりませんが、社内報に初めて海外に取材に出かけた時のことを書いていました」

「ほう。そうですね。どういう内容だったの？」

「叔父さんなら記憶にあると思いますが…。一九七七年のダッカで日本赤軍がパリ発、東京行きの日航機をハイジャックした事件です」

「それならよく覚えてるよ」

「同機はカルカッタ方面に一旦向かった後、進路を変更してバングラデシュのダッカ国際空港に強行着陸し、犯人グループは人質の身代金としてアメリカドルで六〇〇万ドル(当時の為替レートで約十六億円)と、日本で服役および勾留中の九名の釈放と日本赤軍への参加を要求し、これが拒否された場合、または回答が無い場合は人質を順次殺害すると警告した。」

これに対して日本政府は十月一日、福田赳夫内閣総理大臣(当時)が「一人の生命は地球より重い」と述べて、身代金六〇〇万ドルの支払いおよび、超法規的措置として獄中メンバールなどの引き渡しを判断。

政府は運輸政務次官の石井一を派遣団長とし、日本航空の朝田静夫社長らを中心とした政府特使と交代の客室乗務員、食料、身代金と釈放に応じたメンバー六



写真: 知多半島(著者撮影)

※この物語に対する読者の方々のコメント、体験談を左記のFAXかメールでお寄せください。今回は「就職」「日本のゆくえ」「結婚」「夫婦」「インド」「愛知県」についてです。物語が進行する中で織り込むことを試み、一緒に考えます。
FAX: 0569-3477971
メール: takamitsu@akai-shinbun.net



プロフィール

著者・岡田清治おかせいじ
一九四二年生まれ ジャーナリスト
(編集プロダクションNET108代表)
著書に『高野山開創二百年いっばんさん行状記』『心の遺言』などは社員の全能力を引き出せますか!『リヨンで見た虹』など多数

人などを日本航空特別機でダッカへ輸送した。

「あの時は、現地からのTV中継もあって、日本国民は固唾を飲んで見守っていたのだよ」

「私は全く知らないのですが、父親がこの事件の取材命令を受け、帰国後、その悪戦苦闘する取材を社内報で報告したものを読んだのです」

「そうですね。概略、どういう内容だったのですか」

「今日、叔父さんに会うので、その社内報を持参しています」

「見せてくれますか」

「はい。これです。どうぞ」

社内報に目を通す前に事件を思い浮かべた。

「バングラデシュ軍部や政府首脳がこの事件の対応に追われている隙間を狙って十月二日の早朝に軍事クーデターが突発。政府の要人がこの事件に対応するため空港の管制塔に集まっていたことを利用して、クーデター軍は身代金六〇〇万ドルの強奪も企てていた。その後、戒厳令が発令され、市内および郊外における戦闘の末に最終的に二時間ほどで反乱軍は鎮圧されたものの、ダッカ国際空港近辺でも戦闘があり、管制塔内も日本の政府関係者や報道各社の人員の目の前で銃撃戦が行われた。犯人側は当初から「日本政府とは交渉しない」と通達したため、交渉はバングラデシュ空軍のマムード司令官によって行われた。石井が到着した時には現地で人質の部分開放・残りは移送先で解放という内容で現場はまとまっていた。マムードはこの事件の解決を国の威信を上げるために利用しようと考えていた。クーデターによってマムードが負傷したため、その後の通信・交渉は彼の部下が代わって行った。」

真三はあの時の状況を断片的に思い浮かべながら渡された社内報をそっと開いた。そこには若き日の健太郎の顔写真と「暑さと通信の悪さ、極限の中の取材合戦」のタイトルが目に入った。しばらくして木の椅子を見つけて一人腰かけて読み続けた。舞はそのまま運河に沿って散策を続けた。

「十月四日夜、タイ航空のDC8機がダッカ空港を離陸すると、機内にいた約二十人の記者団から期せずして拍手が起きた。『よくみんな無事だったなあ』とA記者。だれもが黙ってうなずいた」

こうして書き出しが始まった。真三は初めてこの事件の取材のことを知った。いまは戦争取材にはほとんどフリーライターとか現地人に任せることが多い。自社の記者やカメラマンを危険にさらすことを避ける。どうしても間接取材になってしまう。今回の場合、日航機をハイジャックした事件であったが、期せずしてクーデターが発生、危険な状況に巻き込まれた。

後日、「戦争という場面を初めて取材でき、いい経験をした」と健太郎は話したことはあったが、詳しくは述べなかった。

社内報は続いた。「ある記者は空港で軟禁され追放された。あるカメラマンは陸路、自転車で国境を越えやってきました。クーデター騒ぎまで起き、怪情報も渦巻いた。東京との通信は気の遠くなるほど時間がかかった。暑さとの闘いも

あった。少し大ききにいえば『極限状態』での取材だった」

いまにして思えば、健太郎は若い時から身体を酷使してきたのだと真三は胸が熱くなるのを感じた。高校時代は真三の後を追って山岳部に入り、高体連の大会まで出たことがあった。だから身体だけは丈夫だと思っ

て見ていた。

社内報は続く。「私ははじめからダッカをめざしたのではない。二十七日の夜、警視庁捜査一課の刑事宅を夜回りしていたら、『クアランプールで日航機が落ちたらしい。パスポートを持って社に上げれ』との指示があり、二十八日早朝、羽田空港をたった。香港経由、バンコクへ直行した」

「二十九日の朝、航空券を買ったり、バングラデシュのビザをもらうためにかけずり回ったが、『ジャーナリストはダメ』の一点張りビザは出なかった。空港には各社の記者、カメラマンも続々集まっていた。本来、日本人は同国へはビザなしで入れるのだが、どうにもならない。社の同僚記者もバンコクへ集まり、秘策を練った。

『寝台バスで陸路に向かつては』という案もあったが、途中通過するビルマ(現ミャンマー)政府が認めないので無理。その頃、バンコク支局長が日外相の訪問旅行同行の際にもらっていたビザが無キズだったので、他社の記者に気づかれないようにこっそりダッカへ向かっていた。バンコク支局長とカルカッタ経由で入ったニューデリー支局長は他者の数人の記者とともに軟禁されたうえ、カルカッタに送還されたことがわかった。

三十日午前、タイ航空DC8機が離陸した。ビザはない。三人の同僚記者も乗り込んでいるが他人を装い、話はない。バンコクの空港で前日同様もめたが、私は『教師』になりすまし『ダッカ経由でデリーへ行くだけだ』といつもぐりこんだ。他の記者もそれぞれ工夫をこらし、女性を同伴している記者もいた」

真三は健太郎が段取り屋の真骨頂を発揮していると報告書を読んでおかしな感じがした。かつて両親をだますテクニクは三人の兄弟の中では抜群であったと語っていた。真三はいつもドジを踏み、長男はストレートに言っただけで反対されることが多かった。

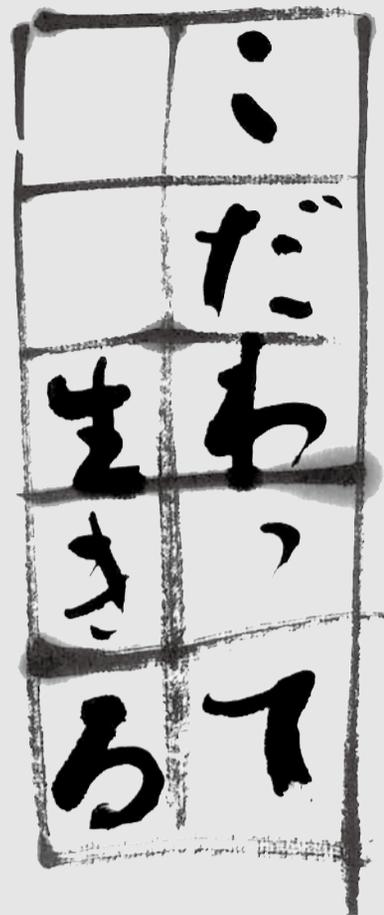
そんな三人の息子を見て、親父の群三は「健太郎だけはシッポを見せないでだまされた」と嘆く一方、「自分もオヤジ(真三の祖父)をだましてきた」と孫まで遺伝されていることを述べたことがあったという。

さらに報告は続く。

「午後一時二〇分過ぎ、日差しが照りつけるダッカ空港に着陸した。ハイジャックされた日航機が空港南端にとまっていた。消防車やテレビ中継車が遠巻きにしている。記者団は一斉に空港ビルに急いだ。キャッツプはいち早く空港から姿を消した。ダッカ入りのトップだ」

健太郎の昂揚した姿が浮かんだが、さらに読み進めると、その姿が一変したことを知った。

絵手紙集



絵文 縦山善久

返文 小林玲子

縦山善久

昭和十一年碧南市で生まれる。丸栄陶業株式会社代表取締役。碧南商工会議所会頭。愛知県陶器瓦工業組合理事長。全国陶器瓦工業組合連合会理事長などを歴任。平成十三年藍綬褒章受賞。平成二十二年旭日小授章受賞。丸栄陶業株式会社取締役会長 現在に至る。京都造形芸術大学・通信教育部芸術学部美術科・洋画コース大学院修士課程一回生。

小林玲子

碧南市に育つ。西尾市在住。共著「西尾の民話」童話「サケの子ピッチ」随筆「海辺のそよ風」(中経コラム「閑人帳」より) ミュージカル脚本 「みぐりちゃんのおうち」ほか



海峡のクルーズから眺めた街並。

夏空に
モスクと国旗が
映える街



旅行の最後はイスタンブールで、市内観光とボスフォラス海峡のクルーズを満喫。海峡はヨーロッパとアジアに挟まれ、北は黒海、南は地中海に面した東西文化をつなぐ地政学上の重要地点です。岸边には超高級別荘が立ち並び豪華客船が数隻停泊して見事な景観でした。対岸にはトルコを象徴する小尖塔のドームのモスクが至るところに立ち、紅地に月と星のトルコ国旗もあちこちで揚げられ、他民族国家がもつ国民の心は一つであると感じました。

日本の観光船から見えるのは、自然の風物。岩壁の奇形とか穏やかな山容、点在する漁村の風景です。そそり立つ摩天楼や、御絵のボスフォラス海峡のクルーズの風景のような人間の偉大な文化の産物とか営みの大きな集積の証はありません。東西文化の融合が一目で見られ、黒海と地中海が見渡せるなど、日本の井の中の蛙には唯々あこがれでしかありませんが国旗を挙げるの挙げないのと騒ぐ国は、ある意味幸せかも知れません。多民族では国旗で心を繋いでいるのかも。よい旅でございましたね。暑い折ご自愛下さいませ。

